

# 伊賀市の文化財

41

県指定有形文化財（典籍）

## 『宗国史』（崇廣堂本）

『宗国史』は、江戸時代後期に藤堂出雲家6代の藤堂高文が編修し、同家9代の高芬が校訂したとされる藤堂藩の歴史をまとめた書籍です。

現在、伊賀市上野図書館には藩校崇廣堂に所蔵されていた6編32巻32冊の『宗国史』が伝わっています。この崇廣堂本『宗国史』には11代藤堂藩主である藤堂高猷の蔵書印「観月楼蔵書」の印記が見られ、藤堂本家の旧蔵本であったことがうかがえます。

筆跡は2筆に分かれ、内容は初代藩主である高虎の藩政をまとめた「本譜太祖公」編に始まり、「一族功臣の年譜・藩法・領地の町村名・人口などが詳細に記されています。特に「遺書録」編や「賜書録」編には、すでに散逸してしまった古文書が収録されるなど、藤堂藩の藩史を研究する上では必須の史料となっています。

しかし、この崇廣堂本『宗国史』は全巻全冊が揃っているのか明らかではありません。高文が編修を開始した寛延4年（1751）段階では全100巻にも及ぶ構想が立て



られました。その後、高文が亡くなる天明4年（1784）

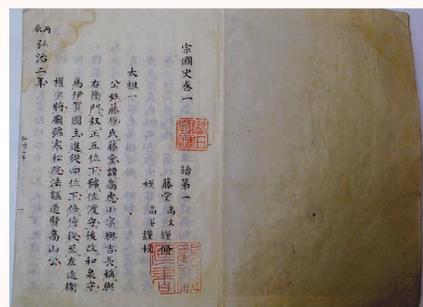
には70巻が存在したとされています。この70巻が原稿本のようなものであったのか、完本に近い状況であったのかは不明です。

高文の死後、高芬による校訂作業を経て、書物としての体裁が整えられ、文政11年（1828）に当時の藩主高猷へ「本譜太祖公」編と「賜書録」編が献上されています。崇廣堂本には高猷の蔵書印があることから、崇廣堂本『宗国史』の一部が、この際に献上されたものである可能性があります。

『宗国史』は崇廣堂に所蔵されていた以外にも、編修者の高文の出身家である出雲家や藤堂本家、津市にあった藩校有造館にも所蔵されていたようです。これらの伝本の多くは戦災などで焼失し、わずかに有造館本1冊と、藤堂本家に伝来していた『宗国史』を、明治20年に内閣臨時修史局が転写した8巻6冊の転写本が伝わるのみです。

ほかの主要な伝本がごとごとく失われた今、32冊がまとめて残されている崇廣堂本の評価は極めて高いものです。崇廣堂本『宗国史』は平成19年3月に県指定有形文化財に指定されています。

教育委員会生涯学習課 ☎ 22・9681



▲「本譜太祖公」編の書き出し  
(中央下部に「観月楼蔵書」の印)

## 菜の花プロジェクト

するのです。

今年で2年目の「菜の花プロジェクト」。昨年は試験的な意味をこめて様々な品種の作付けや、栽培技術の研修も行いました。収穫したナタネでナタネ油も搾ってみました。薬品を使わずに直接圧力かける方法なので市販のものとは比べて独特の香りのいいものができました。

昨年秋に作付けされた菜の花がこの4月下旬から開花時期を迎えます。ドライブの最中に菜の花畑をお見かけのときは、思わず見とれてしまわないように気をつけてください。

本庁農林振興課 ☎ 22-9665

市では「菜の花プロジェクト」に取り組んでいます。現在伊賀市全域で16地区、20ヘクタールの農地に菜の花の作付けが行われています。

「菜の花プロジェクト」とは、遊休農地や転作水田に菜の花などを栽培し、景観づくりを行うとともにナタネを収穫しナタネ油を搾り出します。ナタネ油は地産地消や地域の特産品作りに利用します。

使い終わったナタネ油は他の廃食油とともに回収し、バイオディーゼル燃料（BDF）に精製します。精製した燃料をトラクターなどの農業用に利用することで資源を循環し、環境にやさしい農業を実現



市の花  
ササユリ



市の木  
アカマツ



市の鳥  
キジ

平成21年4月1日 発行／伊賀市 編集／企画振興部広聴広報課  
〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地  
☎ 22・9666 ㊟ 22・9617 <http://www.city.iga.lg.jp/>